

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	保健学研究科
		Current affiliation 現在の所属	保健学研究科

ユネスコチェアサマープログラムに参加して、これまでの自分と変わったと感じる部分は、災害への備えについて考えるようになった点である。

近年、日本国内では台風や地震などによる被害が増加しており、報道等でそれらの様子を目にする機会も多くなってきている。災害の被害状況や避難所の様子の報道を見るたびに大変そうだなという気持ちと自分も何かしら準備しなければいけないと漠然と考えていた。しかし自分はこれまで災害に対する準備や避難時の計画について真剣に考えることはあまりなかった。避難しなければいけないような大きな災害が自分の周りでは起きないだろうという気持ちが心のどこかにあった。東日本大震災が発生した際に自分は東北に住んでおり震災を経験したが、その時は家族と一緒に暮らしていたため、自分でどうしなければいけないかを考えることは少なかった。あれほどまでに大きな災害を経験したが、時間が経過するにつれて少しずつ気持ちが緩んでいる部分があると自分自身でも感じていた。

そうした中で昨年、ユネスコチェアサマープログラムに参加して災害について色々な国の人と一緒に学ぶ機会があった。レクチャーやフィールドワーク、グループワークなどを通して災害について考え、災害支援時に必要な視点や配慮について学ぶことが出来た。プログラムに参加して印象に残っているのはメラピという火山の噴火についてである。メラピ火山は活火山であり、数年前に大きな噴火が起きていた。また自分達がインドネシアを訪れる数か月前にも噴火が起こっていた。火山の噴火について自分が知っている事はほとんどなかったので、災害時の備えや対応などについて初めて学ぶことが非常に多かった。実際に噴火によって避難を余儀なくされた方のお話を聞く機会があり、避難の様子や避難してからの生活を知ることが出来た。お話の中で、メラピ火山は何年かおきに噴火を繰り返してお

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	国際協力研究科
		Current affiliation 現在の所属	国際協力研究科

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。

このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。

How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?

If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.

このプログラムに参加したことによる影響は三点あると思います。第一に、国際協力研究科で学んでいる‘国際協力の視点’でいえば、災害時などの不安定な状況においての国際機関や現地当局の役割と民間レベルの役割について新しい視点を得ました。具体的に述べると、災害後に人々の生活を持続的に支えるのは、ビジネスや物なのだというこ

とを改めて感じました。研究自体にはあまり影響はありませんでしたが、自分の目でみて感じたことは、無意識のうちに考え方に影響を与えていると思います。また、この視点は思わぬところにも影響を与えました。就職活動で

す。私は結局民間企業に就職することになりましたが、その過程で「国際協力研究科に進んだのに、なぜ民間企業の選考を受けるのか」という質問に答えるのにかなり有用でした。

第二に、大学内の様々なバックグラウンドを持つ人とつながりをもち続けることができたことです。それぞれの分野で頑張っている意識の高い人が多く、学ぶことも多く刺激的です。個人の性格にしても、活動にしても、こんな人

ようになれたらいいなと思う人がたくさんいます。進路も様々で、いろんな話を時折聞けそうで楽しみです。刺激を受ける以外にも、対人関係に関しても学ぶことができました。人それぞれ考え方や感じ方は違うということは理解してきたつもりですが、その違いの幅広さを実感しています。いろんな人に出会ったことによって、対人関係でも、な

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	海事科学部 4年生
		Current affiliation 現在の所属	海事科学研究科 博士前期課程1年

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。
このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。
How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?
If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.
ユネスコチェアサマープログラムへの参加することで、交友関係が広がり、世界の広さを実感し、
今まで以上に海外の文化や海外で勉強することに興味を持つようになりました。
初対面の人とコミュニケーションをとることは得意ではなかったですが、自分なりに工夫をして話しかける
ことで新たな友人ができたことも自分に自信を持つことにつながりました。
学生のうちに海外で勉強したい、という思いが強くなり、積極的に派遣制度やプログラムを検索し、応募
するようになりました。現在、大学の理工学系人材育成プログラムの制度を使って、スウェーデンの
ストックホルム大学で研究のためのデータ収集及び学会への参加を通し、多くのことを学んでいます。

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	国際人間科学部 環境共生学科
		Current affiliation 現在の所属	環境共生学科 生活プログラム

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。

このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。

How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?

If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.

大学1年生の夏に、ユネスコチェアサマープログラムに参加できたことを大変良かったと思っている。理由は、このプログラムで様々なバックグラウンドを持つ仲間たちに出会えたからだ。

まず、日本から一緒に行った学生たち。様々な学部、学年の学生、留学生と2週間を共にし仲良くなれた。今でもこの関係は続いており、ユネスコチェアに行ったメンバーで年に数回集まっている。1年生の時に、大学生活の先輩であるユネスコチェアの仲間たちに出会えて、自分の視野が広がったこと大変良かったと思っている。参加したメンバーは、学問を追求している人や、海外経験の豊富な人、社会経験のある人など、幅広かった。素敵なメンバーとユネスコチェアを通して仲良くなれたことに感謝している。

また、UGMの学生との関係も続いている。このプログラムは大学での講義が中心であること、フィールドワークも現地大学生と共に行くこと、自由時間が多く宿泊地周辺が観光地であり授業以外でも現地学生と関わることなどから、現地の学生と大変仲良くなれる。私はこのプログラムで、インドネシアにかけがえのない友達ができただ。また、インドネシアの人の優しさに触れ、インドネシアが大好きになった。このようなことから、またインドネシアに行き

たいと思い、今年の夏もインドネシアに行く大学のプログラムに参加した。スラウェシ島でホームステイを通してフィールドワークをするプログラムだ。そして、そのプログラムの前に、ユネスコチェアで仲良くなった UGM の友達に会いに行き家にも泊めてもらった。インドネシアに、1 年経っても自分を暖かく迎えてくれる友達ができることが嬉しい。

また、ユネスコチェアでは英語で授業を聞きディスカッションをする機会が多かった。私は、参加者の中で英語がひどくできない方であったが、わからないことを自分の拙い英語で質問したら、みんなが優しい英語で丁寧に教えてくれて、高度な内容の授業だったにも関わらず、取り残されることがなかった。そこで、積極的に自分から尋ねることで、言語の壁を超えて異なる国の学生とも打ち解けられることを学んだ。ユネスコチェアがきっかけで海外が怖くなくなった。積極的に話すことの楽しさに気づき、より積極的に行動できるようになった。

さらに、海外プログラムで経験できることの多さ、楽しさに気づき、海外志向が強くなった。大学のうちに、自分で情報収集をし、多くのプログラムに参加しようと思った。

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	保健学研究科
		Current affiliation 現在の所属	修士課程2年

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。

このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。

How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?

If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.

ユネスコチェアサマープログラムに参加したことは、自分の精神面、研究面に非常に良い影響を与えたと考えている。まず、精神面において、今までは英語に自信がなく、人前で英語で話すことが苦手だったが、ユネスコチェアに参加していた多国籍で積極的なメンバーと接したり、発表の場を設けていただいたことによって、以前に比べると英語に対する苦手意識や英語を人前で話すことへの抵抗が減っていることを実感した。国際分野という英語が必須な領域にいる私にとって、この変化は、とても良いものだった。

次に、研究面においては、私の研究のフィールドがインドネシアであり、災害に関することであることから、プログラムの体験や講義等から学んだことは、非常に研究に役に立ったと思う。インドネシアの津波早期警報システムについてや、災害時の救護ボランティアの活動の様子など、現地に行かなければ分からなかったことも多く、インドネシアの災害対策の現状について学ぶことのできるとても良い機会であった。

しかし、個人的には、このプログラムで出会った仲間との繋がりが一番、有難い。日本チームの方とは、帰国後も連絡を取り、会う仲になった人も多く、他分野の学生と公私ともに繋がれたことは、非常に嬉しく、今後も繋がりを

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	国際人間科学部
		Current affiliation 現在の所属	国際人間科学部

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。

このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。

How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?

If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.

一つはキーワードでもあった「脆弱性」に対する考え方が変わったことです。脆弱な人やコトというワードが自分事ではなかったのが、社会や状況が変われば自分だっていつでも「脆弱な」立場になり得るんだ、と思うようになりました。それこそ台風の影響をもろに受けて始まったユネスコチェアでしたが、出発前フィリピンにいた私はあのときフィリピンで台風被害にあっていたら、外国人で情報のとり方も地理的な理解もないので、日本にいる時よりもはるかに脆弱な存在だったと思います。逆に考えれば、脆弱だとされる女性や子供、高齢者の方々なども、その周囲が変われば、その脆弱性ははるかに小さくなるようになる、問題点を脆弱だとされる対象に求めるよりその環境に求めることもできるようになったと思います。

次に、「ジェンダー」というワードをもっと身近に考えられるようになったと思います。正直、渡航前まではジェンダー問題は私にとって関心の薄い事柄の一つでしたが、今では関心ごとの一つです。ロニー先生が講義でしてくださった、「女の子らしいポーズ、男の子らしいポーズをしてみてください」によってほとんど全員が同じポーズをとっていたことを今でも覚えています。あれ以来、男女の生まれながらにして持っている性差、と社会的につくられたジェンダー差についてよく考えるようになりました。だから東大の上野先生が「かわいいという概念」についてお話

も大変興味深いと思いましたし、神戸に講演しに来られた際は足を運びました。かわいらしい、の意味の延長上に行きつく、当然守られるべき存在としての女性像は男性側に常にリードすべきという印象を与えるし、それが時に問題になることもあれば、そうではありながら根本的な性差への理解が欠けているがゆえに女性をより脆弱な立場に追いやってしまうケースもあるなと思いました。また多様性社会というワードもたくさん触れる機会が増える中でジェンダーの多様性についても考えるようになっていきます。

ユネスコチェアからまだ一年しか経っていませんが、日本だけでも大雨、地震、台風、とたくさんの災害が起きました。これらに対する見方や備え方、感じ方は以前よりずっと広くて深いものになっていると思います。震災の記憶というのも自分にとって一つの重要なトピックでしたが、二度と起こさないために伝えていく戦争の記憶の残し方は、災害時に起こった人的災害の記憶の伝え方にあてはめられ、また必ずやってくる自然災害に対して備えるための伝え方、残し方は受け取り方も同様に前者とは違うなと思うようになりました。ユネスコチェアで学んだことを忘れずに、これからも必ずやってくる災害によく備え、努めれば自分たちによっても防ぐことのできる二次災害を減らすために普段から他者との相互理解やコミュニティを大切にしていきたいと思っています。

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	海事科学部
		Current affiliation 現在の所属	海事科学研究科

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。

このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。

How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?

If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.

サマープログラム（災害時の脆弱性についての考え方や議論）では、個人的に災害に関して興味がありましたので、災害時におけるインドネシアでの捉え方や、各国の考え方などを知ることができて、非常に有意義でした。また、研究室でメラピ山の噴火やそれに伴う土石流、砂防ダムなどを実際に見て回ることもでき、良かったです。実際の現状や、現地とのギャップも感じました。別の話になりますが、世界遺産を観光したことや休日に現地の知り合いに案内してもらい買い物したことも（ディープな面も知ることができ）日本での当たり前とインドネシアでの当たりの違いをも感じることができました。（インドネシア料理にハマリ、日本でもお店を見つけて食べるようになりました。）

サマープログラムに参加したことによって、外国人とのコミュニケーションや文化の違いを理解できるようになりました。英語をコミュニケーションの手段として、様々な専門の方々と意見を交えることで、災害時の考え方のみならず、伝え合う・理解し合う楽しさを知りました。これまで海外への留学経験もなければ、話すことなどありませんでした。しかし、現在は完璧な英語を話せなくても伝わり、伝えようとする力次第で理解し合えることがわかり、多角的に物事を考える重要性に気づきました。また海外で心細いときに、現地の人が助けてくれる有難さ

も理解できたので、研究室でも海外の人が来た際、積極的におもてなすことができました。街中でも、外国人に対して、臆することなくコミュニケーションを取ることができ、嬉しくなります。経験は大切だと感じました。あまり長い期間ではありませんでしたが、濃密なサマープログラムで知りあった方、何人かと現在でも連絡を取っています。観光の話や災害時の連絡、近況や政治的な話、世間話など様々です。かけがえのない繋がりができました。

当時、まだ学部生で英語力や専門的な知識も乏しくかなり不安でしたが、多くの学びや発見があり、非常に多くのことにこの経験が活かされています。また、不安や消極的になりがちなことにも、「**とりあえず**参加してみる・挑戦してみる」ということを心掛けるようになりました。気持ちがあまり乗っていないときも、参加してみることで結果的に得るものが多いことが大半です。イベントやセミナー、就職活動においてもです。新たな勉強にも興味が出てきたり、人脈が広がったりしています。やってみる精神から趣味も増えて、時間の使い方にも着目するようになりました。小さなことの繰り返しでも、これもまた大きな収穫として現在の行動に役立っています。

英語力に自信がなくても、伝えよう・聴き入れようとするのも大切さと、行動し挑戦することの重要さも身に染みしたので、少しずつですが成長に繋がっています。

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	海事科学部 マリンエンジニアリング
		Current affiliation 現在の所属	学部4年

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。

このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。

How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?

If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.

プログラムのおかげで、夢見ていた職に就くことができました。日本政府での仕事を得る上で役に立ったことを、3つ学ぶことができました。

まず、自分の欠点を見つけることができました。プログラム以前は、自分の発言に責任を取るべきということを理解していませんでした。私はよく、「よくわかりませんが、・・・だと思います」のような言い方をしていました。プログラムではグループディスカッションの機会がたくさんありました。自分の考えを他人に伝えるのに苦労しました。議論の最中、何か思いついても、他の学生にうまく伝えられませんでした。その時、問題に気づきました。自分の発言に責任を取るべきということを理解していなかったため、深く考えることをやめていたのです、そのため、自分の考えに説得力がなく、他人に理解してもらえませんでした。プログラム終了後、新聞記事の切り抜きを始め、記事についてもっと探求するようになりました。始めた理由は、深く考える助けになると思ったからです。自分の欠点が見つかったおかげで、グループディスカッションで自分の考えを上手に説明できるようになり、就職活動に役立ちました。

次に、外国人とのコミュニケーション方法を学びました。プログラムの期間中、外国人と話していると、日本に関する質問をされましたが、私には答えられませんでした。すぐに会話が止まってしまい、相手は私と話す興味を失ってしまいました。この経験から、自分の国、文化などについて勉強する必要があると気づきました。三島由紀夫や村上春樹など有名な日本の小説をたくさん読み、日本文化について勉強しました。マレーシアの教員に神戸を案内する機会があった時、教員と話をする機会に恵まれました。なぜ日本人は一列で待つことができるかなど、日本に関する質問をたくさん聞かれました。質問に答えることで興味をひきつけることができ、会話を続けることができました。他の国について学ぶだけでなく、日本のいいところも知ることができました。このガイド経験から、政府で働き日本のいいところを発展させたいと決意しました。

3番目に、政府でどのような仕事をしたいか知ることができました。プログラムには、巧みな手法がたくさん用意されていました。三か国語を流暢に話せる人がいて感心したので、中国語の勉強を始めHSK試験に合格しました。中国語を学ぶにつれて、中国への関心が高まりました。日中両国の協力関係がどのようになるべきか、考えたいと思っています。その部署で働き、考えたいと願っています。

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	Graduate School of International Cooperation Studies
Name 氏名		Current affiliation 現在の所属	M2 student

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。

このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。

How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?

If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.

当初私は、本プログラムに参加して他国での災害リスク管理 (DRM) 手法をもっと学習し、DRM の実践的側面について自分で見て学びたいと考えていました。しかし、参加により得た成果は本当に大きなものでした。まず、授業の編成や私たちのニーズに合ったスケジュールに本当に感謝しています。おかげで、少し休息する時間や地元料理を楽しみ、街中を散歩する時間も取れました。神戸大学のグループがお互い非常によく助け合っていることも印象的でした。おかげで、神戸大学の他の学生たちとともに滞在中、常に安心・安全を実感することができました。また、インドネシアや台湾の他の学生や教員たちからも支援やアドバイスを頂きうれしく思いました。プログラムの実施環境全体に感謝しているといってもいいでしょう。

第2に、プログラムでDRMのこれほど多くの分野がカバーされているとは思っていませんでした。様々な講義やフィールドトリップがあり、DRMの多くの側面についてたくさん学べたと感じています。

さらに、自分が研究を進めている分野について詳しい知識や詳細な情報を得ることができ、自らの研究やその後参加した会議で大変役に立ちました。私は、こうして得た知識を簡単に他人に伝え、共有することができます。

さらに、情報を共有し、実際の状況を一層理解し、よりよい改善方法を考えていくためには、学者だけでなく実務家やその他のステークホルダーも知識のやりとりに優先的に取り組まなければならないことを理解しました。

最後に、これも大事なことです。参加時から現在に至るまで、様々な国出身の多様なバックグラウンドを持った非常に多数の学生や教員を結びつけているユネスコチェアという大きなものへの帰属意識を持つようになりました。私は多くの友達を作り、他国で生活するという素晴らしい経験をし、様々な信仰や伝統を持つ人々とコミュニケーションを取ることを学びました。また、日ごろからの学習方法にとどまらず、他国で用いられている手法にも目を向けたという気持ちを持ちました。サマープログラムの終了後、アジアで開催された会議に2回参加し、サマープログラムで学んだ方法や出会った知人に大きな影響を受けました。サマープログラムで受けた授業のおかげで、修士論文で取り上げたいトピックや研究、将来働きたい分野について、ようやく明確に理解することができました。

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	Graduate School of Health Sciences
Name 氏名		Current affiliation 現在の所属	M2 Department of Rehabilitation Sciences

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。

このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。

How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?

If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.

災害およびジェンダー脆弱性に関するユネスコチェアサマープログラムに参加し、私たちは災害やジェンダー脆弱性に関する必要な知識を得ることができました。この問題の様々な側面に関する専門家の意見を聞くことができました。プログラム参加前、私は災害や災害リスク軽減方法について一般的な知識はありました。サマープログラムを終え、特に災害リスク軽減におけるジェンダーの役割など、この問題についてより深く知ることができました。プログラム実施中、災害やジェンダーに関する様々な視点を学び、様々な議論に参加する際に役に立ちました。サマープログラムを通じて、災害軽減における全てのジェンダー集団や脆弱な集団の役割についてよりよく理解することができました。2010年のメラピ火山噴火の避難民との会合を思い出します。皆非常に立ち直りが早く、災害準備の重要性について語ってくれました。

サマープログラムでは災害・ジェンダー脆弱性に関する様々な意見や視点に耳を傾ける機会がありました。またサマープログラムを通じ、文化的多様性や異文化コミュニケーションの感覚を身につけることができました。

教育プログラムとは別に、インドネシアや台湾の友人を作ることができました。私たちは引き続き連絡を取り合っています。ユネスコ世界遺産のボロブドゥール寺院など有名な観光地も訪問しました。地元料理を食べました。私はインドネシア料理を満喫しました。

ユネスコチェアサマープログラムの貴重な経験を通じ、災害に備える準備ができました。私はまた、災害時の障害者の福祉を整えるための研究遂行にも関心を持っています。ユネスコチェアサマープログラムに参加し、学びたいと思

っていたことを学ぶことができ本当に幸運だと感じています。

Kobe University UNESCO Chair Summer Program Participant Follow-up Survey
 神戸大学 ユネスコチェアサマープログラム 参加者 追跡調査

Year of participation 参加年度	2018年	Faculty or 参加時学部・ Graduate School 研究科	Health science
Name 氏名		Current affiliation 現在の所属	Health science

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加したことはあなたにどのような影響を与えましたか。 このプログラムをきっかけにして始めたことなどあればそれも紹介してください。
How have you been influenced by your participation in the Kobe University UNESCO Chair Summer Program?
If as a result of your participation you began something new or changed in some way, please share it with us.
<p>私は神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに大変感謝しています。プログラムのおかげで、多くを学ぶことができました。災害についてより詳しくなただけでなく、ジェンダーヘルス問題についての考え方を改めることができました。</p> <p>まず、災害復興について多くのことを考えることができました。様々な種類の自然災害があり、それぞれ困難があります。インドネシアは環太平洋火山帯に位置し、地震、津波、火山噴火、洪水、旱魃など多くの自然の脅威に直面しています。インドネシア政府は2004年の大規模なインド洋津波の後、法律や政策、機関を改編し、災害リスクマネジメントの向上に努めました。インドネシアの高齢者に対する災害ケアでは、災害復興計画に保健事業の発展が盛り込まれ、生活の質の確保が大きな問題として位置づけられています。私は高齢化について研究しているため、災害復興の方法について検討する場合、災害後の高齢者の健康にどのような影響があるかに注目します。高齢者の支援ネットワークを通じて、コミュニティの持つ重要なリソースを高齢者が利用しやすくなります。これも私の大学での研究計画に盛り込んだ新しい考え方です。</p> <p>さらに、ジェンダー平等という重要な問題があります。今日、男女間では機会アクセスに格差が根強く残り、不平等の問題に直面しています。男女平等は複雑な問題です。様々な側面、そして個々の問題の論点について検討が必要です。私の研究課題についていえば、女性が職場で直面する大きな困難に関心があります。中国の職場でジェンダー平等が達成されているかどうか戸惑いがあるからです。</p>

Year of participation 参加 年度	2018 年	Faculty or 参加 時学部・ Graduate School 研究 科	Graduate School of International Cooperation Studies (GSICS)
Name 氏名		Current affiliation 現在の所属	GSICS

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加してから 1 年が経ったというのが信じられない思いです。このように感じるのは、この経験が過去の切り離された思い出ではなく、ある意味自分の一部になったからだと思います。プログラム期間中、毎回出会う機会に恵まれた人々の顔が今も鮮明によみがえります。こうした交流を通じて経験した自分の気持ちが心に焼き付いています。共通の言語を用いたコミュニケーションができないときは、自分の感覚や直感に頼り、人々の目や表情に浮かぶ物語を理解しようとしました。こうした経験を通じ、脆弱でかつ立ち直りが早いということが何を意味するか、よりよく想像し理解することができるようになりました。

神戸大学ユネスコチェアサマープログラムの参加を終えて帰国後、私は神戸大学大学院国際協力研究科に進み、災害リスク管理コースを履修することにしました。最も脆弱な人々に災害がどのような影響を与えるか、災害軽減にはどのような行動が必要か、地域コミュニティのグループから国の政策立案者、国際機関へと広がるステークホルダーのネットワークが、災害のインパクトにいかなる影響を及ぼすか、より理解を深めたいと考えたからです。サマープログラムへの参加がなかったら、このコースを履修することはおそらくなかったでしょう。プログラムを通じ、生活や人々に対する新しい見方を発見したように思います。この経験を通じ、日頃から専門的能力として活用している視点を広げることができたと確かに感じています。プログラムへの参加により、学生がいかに他者と交流し、慣れない環境や状況に向き合っているかについての私の見方にも影響があったと思います。こうした知見は、プログラムを立案し、様々なバックグラウンドや経験を持つ大学生向けに優れた学習環境を作り出すうえで、とりわけ有益なものです。

知的な刺激を与える教員たちから災害リスク管理における脆弱性やジェンダーについて学びつつ、新しい文化に浸り、様々な学部出身の多様なバックグラウンドを持つ幅広い仲間たちと協力する機会に恵まれたことに、本当に感謝しています。ユネスコチェアサマープログラム期間中および終了後に至るまで貴重なサポートおよびご指導を頂いたアレクサンダー先生および岡田先生には心からの感謝を申し上げたいと思います。

Year of participation 参加 年 度	2018 年	Faculty o r 参加 時 学部 ・ Graduate School 研 究 科	国際協力研究科
Name 氏名		Current affiliation 現 在 の 所 属	国際協力研究科

昨年、私はインドネシアのガジャマダ大学で開催された神戸大学ユネスコチェアサマープログラムに参加しました。私の人生最高の思い出の一つとなり、多くの面で確実に影響を受けました。この経験に心から感謝しています。

まず、自分の限界に気づくきっかけとなりました。本プログラムには、各国から優秀な学生が大勢参加していました。そして、グループディスカッションの際に、議論やあらゆる活動に非常に熱心な学生がいることを知りました。グループワークに貢献できるよう、ためらわずアイデアや意見を表明できていました。彼らと比べると、私はいつも寡黙で、最初はグループワークを楽しむことができませんでした。しかし、もし自分の考えを表明し他人と協力することができなければ、プログラムに参加していても何も学べないしプログラムに全く貢献できないと気づきました。そこで考え方を改め、積極的にグループ討論に参加しました。世界中から来た他の学生と議論することで、様々な考え方を学び、自分の知見を広げることができ、グループで他人とどう協力するか学びました。この学びは大学生活だけでなく就職後も有用だと思えます。

2 つ目に、フィールド調査に興味をもつきっかけとなりました。フィールド調査では、以前火山噴火で被災した村を訪問しました。インタビューを行う前、村人は被災経験について語りたがらないのではと心配していました。悲しい経験だからです。しかし、ペトゥン村の住民にインタビューし、彼女の前向きな姿勢に感動しました。先日の火山噴火で被災し、今も災害リスクの高い地域で生活しているのに、政府の支援により、現在の生活に満足しています。フィールド調査を通じて、思いもしなかったような興味深い考え方と出会えることに気づきました。今は私も修士論文執筆のためフィールド調査を行っていて、楽しさを感じています。

3 つ目に、人を大切にし、感謝することを学びました。本プログラムでたくさんの友人ができました。とても親切な人たちで、インドネシアでは彼らとともに本当に楽しい時間を過ごしました。彼らから異文化を知り、また私が困っているといつも助けてくれました。今も日本で会える人もいて幸せです。プログラム終了後会えなくなった友達とも、連絡を取り続けています。出会えた幸運や共に過ごした時間のことを本当に大切に思っています。

また、ガジャマダ大学の教員や学生の皆さんにも感謝しています。非常に多くのアクティビティを用意して頂き、学業から日常生活に至るまで私たちのことをとてもよく面倒みてくれました。週末になると、ガジャマダ大学の友人たちがいつも近くへの旅行に案内してくれました。私たちのために車両を予約し、旅行スケジュールを考えてくれまし

た。私たちが文化を理解できなかったり、言語の壁に突き当たったりした時は、いつも説明をしてくれました。私たちのためにやってくれたことに本当に感謝していますし、決して忘れません。彼らの親切さから、自分が持っているものを大切に、感謝することを学びました。このプログラムで、私は期待していた以上のものをたくさん得ることができました。インドネシアで過ごした日々の全てのこと、貴重な思い出に感謝し、一生心に深く刻みたいと思います。